

火葬場事例リスト

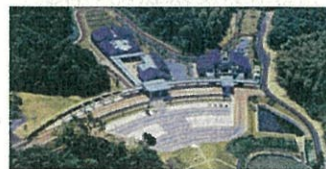
2016年8月22日

廣田 竜介

01 title | 弘 前 市 斎 場
profile | 青森県弘前市 設計=前川國男 1983.8



02 title | し ず か の 里
profile | 香川県三木町 設計=八木澤社一 1999.5



03 title | 金 山 町 火 葬 場
profile | 山形県金山町 設計=益子義弘 1995.12



04 title | 風 の 丘 葬 斎 場
profile | 大分県中津市 設計=横文彦 1996.7



05 title | 筑 紫 の 丘 斎 場
profile | 兵庫県太子市 設計=連藤秀平 2003.7



06 title | 今 治 市 火 葬 場
profile | 愛知県今治市 設計=佐藤総合計画 2005.3



07 title | さ ざ な み 浄 苑
profile | 滋賀県近江八幡市 設計=共同設計 2005.5



08 title | 瞑 想 の 森
profile | 岐阜県各務原市 設計=伊東豊雄 2006.7

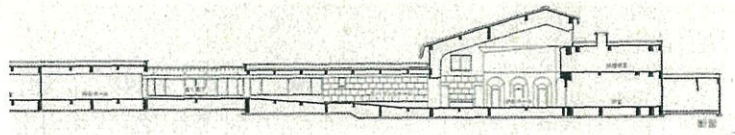
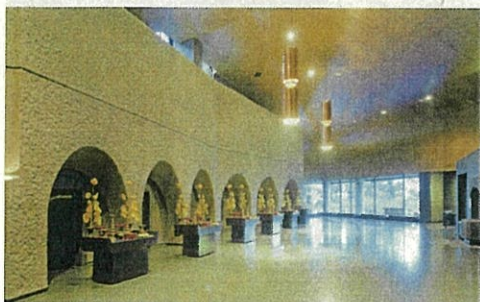
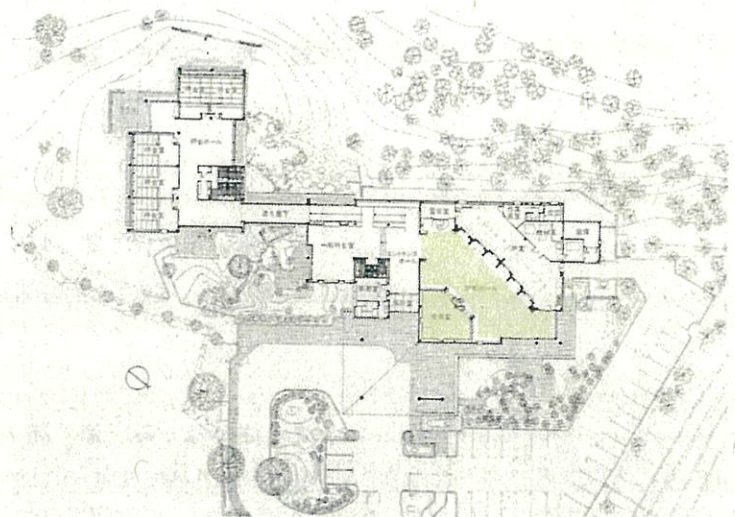


09 title | 広 島 市 西 風 館
profile | 広島県広島市 設計=日総建・車田建築 2012.4



title | 弘 前 市 斎 場
 profile | 青森県弘前市 設計=前川國男 1983.8

concept | 「いたわりと敬意」
 planning | (拾骨分離型)
 floor space | 1,629.32 m²



弘前市斎場は既存の施設を立て替えた施設であり、裏の杉山を少し削り、建てられた。岩木山に向かって煙が上り、山に向かって死者が葬られるように、火葬棟の背景になるように配置されている。(1)
 エントランスの大屋根は会葬者をぶこつな手で暖かく包むこむように迎え入れるようにデザインされており、素材や光が厳選されている。(2)

遺族にとって重要な儀式である取骨の空間だけは独立しており、炉前ホールとのバランスや位置関係を考えられて配置されている。(3)
 炉前ホールでは会葬者に隣の炉を見せないように化粧扉を奥に引っ込められている。また、読経が美しく響き渡るように音楽ホールを参照し、天井が設計されている。(4,5)

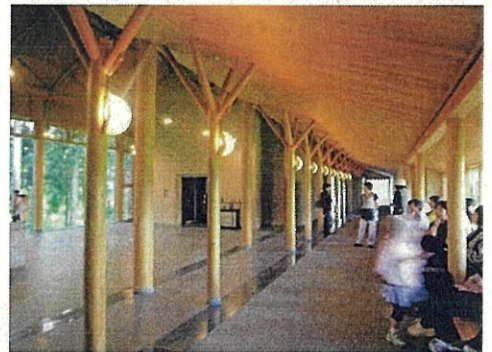
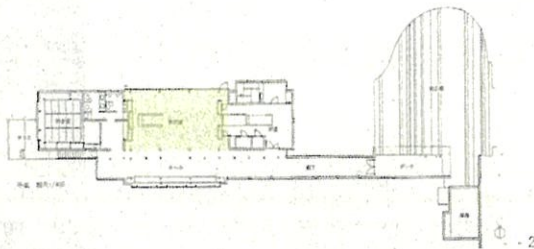
title | 金山町火葬場

profile | 山形県金山町 設計=益子義弘 1995.12

concept | 「故人を森の中へ送る」

planning | (非分離・一体型)

floor space | 375.03 m²



金山町は山形県北部に位置する金山杉の産地で約八千人の小さな集落であり、村人のための火葬炉一基の小規模な火葬場が杉の森の中に建つ。(1) できるだけ敷地内の杉の木を切らず、環境そのものの原風景の中に人々の精神的な秩序ある空間を挿入した。(2) 火葬室と廊下はコンクリートであるが、本体部分は金山杉を生かした木造になっている。(3)

森の空間の中で、この村の最期を迎えた人々を送ろうと考えられ、入り口を入ると正面のガラスを通して見える緑と木立をイメージした柱が会葬者を森へと導く。炉前ホールに入ると前面に杉の森が広がる。まさに森の中の告別の場となっている(4)

建物の存在感を消し、元々の警官に配慮した数少ない事例である。

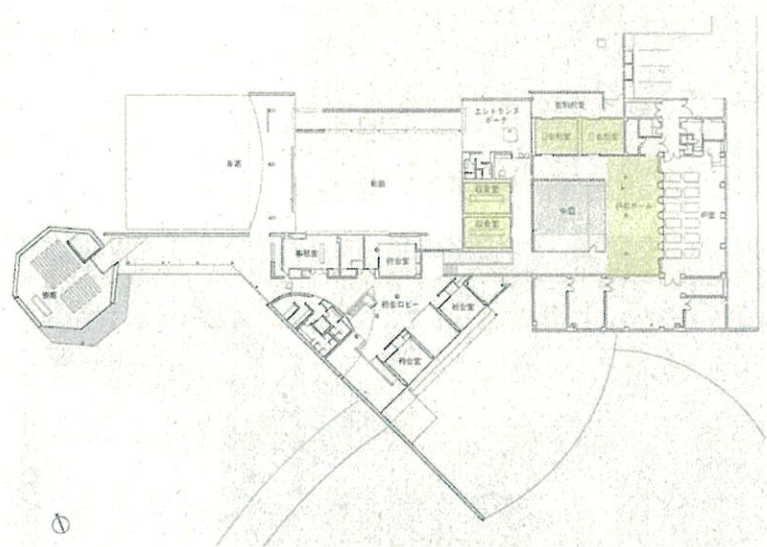
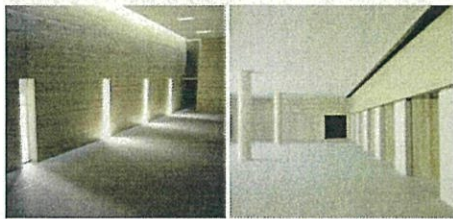
title | 風の丘葬斎場

profile | 大分県中津市 設計=横文彦 1996.7

concept | 「風景の中に佇む静けさと厳粛さ」

planning | (告別・拾骨分離型)

floor space | 2,250.88 m²



風の丘葬斎場は大分県中津市郊外の丘陵地にある。敷地内には古墳などの遺跡や既存の墓地などを配慮してデザインされた一体となった伸びやかなランドスケープが来訪者を迎える。建築はその風景の中で彫刻のように静かに佇んでおり、「静けさと厳粛さ」をコンセプトに計画されている。(1,2)

車寄せから始まる次の行為への移行空間を重視し、斎場部分、火葬部分、待合部分を各々に距離を保ちながら緩やかに連結しており、繊細なディテールが生み出す光が来訪者を炉前ホールへと導く。(3,4)

外観は三つの幾何学が煉瓦・コールテン鋼・コンクリートという異なる材料で仕上げ、公園の中のオブジェとしての記号性を獲得している。(5,6)

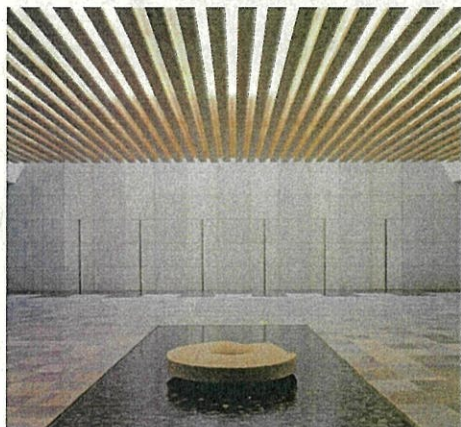
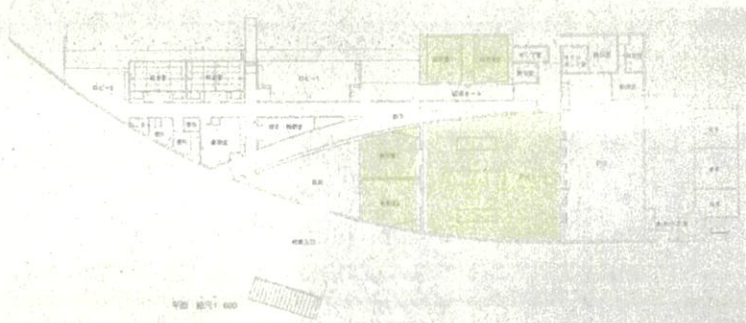
title | 筑紫の丘斎場

profile | 兵庫県太子市 設計=遠藤秀平 2003.7

concept | 「祈りと奥行き」

planning | (告別・拾骨分離型)

floor space | 2,351.03 m²



この斎場は老朽化した火葬場を新設したものであり、従来の火葬場よりも比較的街中といえる環境に位置している。また、街を見渡せる丘に位置していることも大きな特徴である。(1,2)

地形を利用したアプローチからエントランスへ向かい、エントランスからはそれぞれ告別室へ進入し、そこから炉前ホールへと向かう(3)

各室が大きく湾曲する壁面に沿って連続しており、この奥行きある移動が日常と非日常の空間を切り替えるものとなっている(4)

炉前ホールは比較的シンプルなつくりとなっており、繊細な採光の取り方や石材をふんだんに使った表情豊かな素材の演出により、祈りの空間にふさわしい緊迫した雰囲気を生み出している。(5)

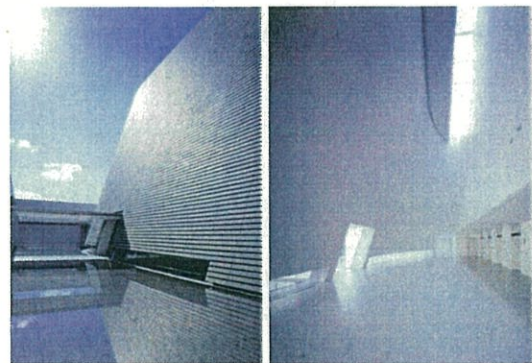
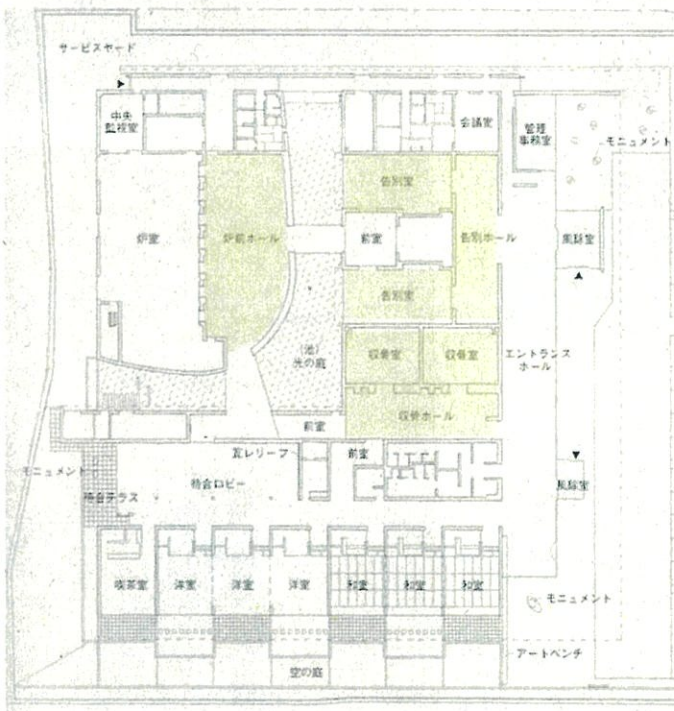
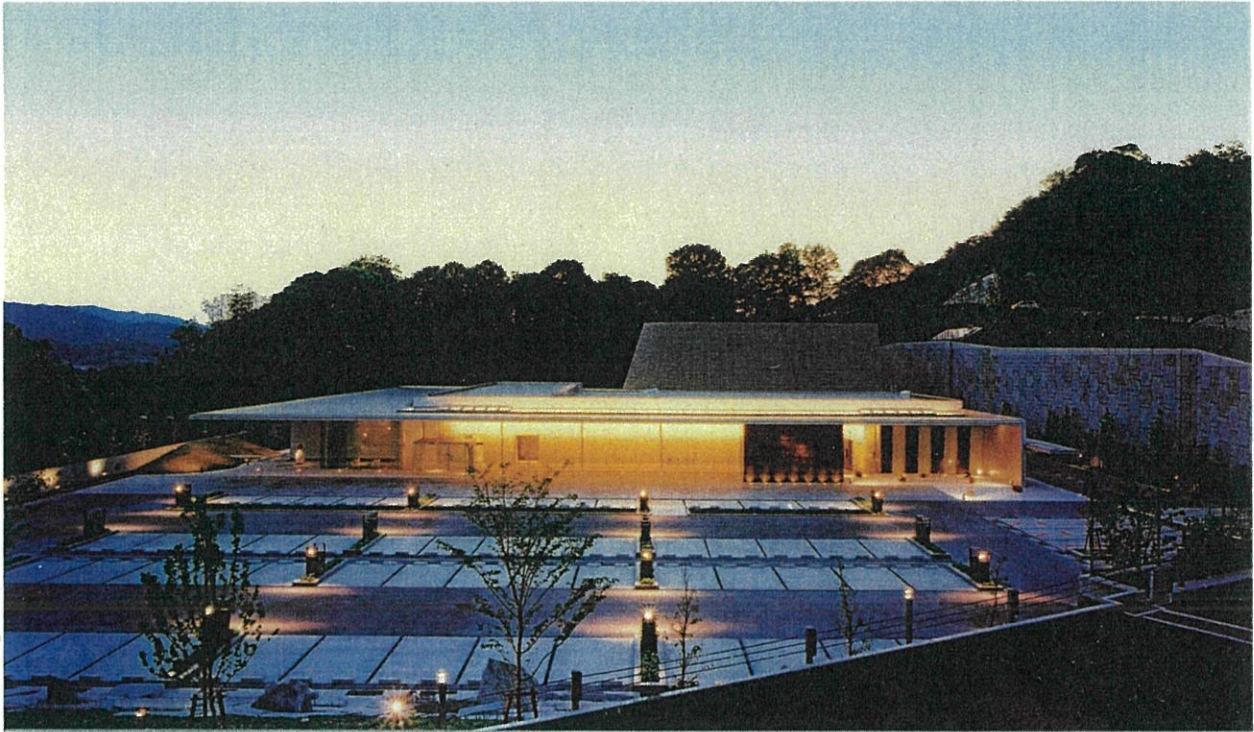
title | 今治市火葬場

profile | 愛知県今治市 設計=佐藤総合計画 2005.3

concept | 「光と水のセレマトリー」

planning | (告別・拾骨分離型)

floor space | 3,027.66 m²



この地の原風景である光と水による「2つの境界」を視覚化し、この場所独自のお別れのための道のり空間（火葬場）を計画した。(1)
ファサードの大部分を構成する大きく開かれた庇が閉じられがちな火葬場のイメージを払拭している。(2)

葬儀は常に炉棟を意識しながら進み、告別室では水盤越しに向き合い、焼香の後、最期のお別れの場所である炉前ホールへと向かう。(3)
炉前ホールは丘のような柔らかい造形を美しく水面に浮かびさせ、歳暮の別れを印象深いものへとしている。白を基調に物質感を消し、光と影の陰影を際立たせることで、極めて高い精神性の空間を生み出している。(4)

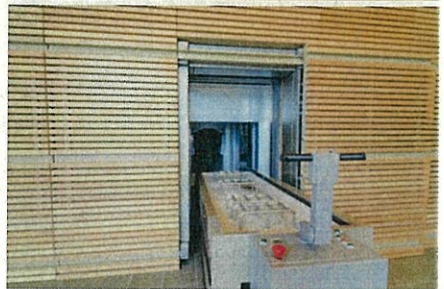
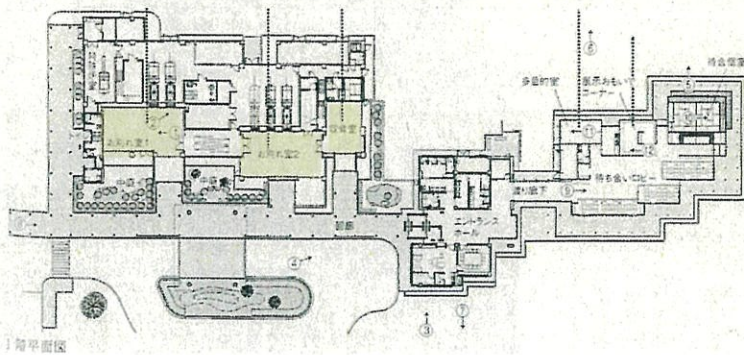
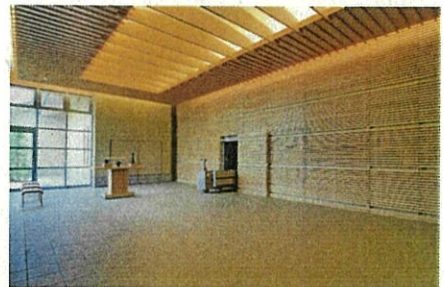
title | さざなみ 浄苑

profile | 滋賀県近江八幡市 設計=共同設計 2005.5

concept | 「馴染みある火葬場へ」

planning | (拾骨分離型)

floor space | 2,365.02 m²



日常的な風景の街並みに溶け込む外観を持つさざなみ浄苑は火葬場としての非日常的な施設とされるのではなく、「本来の姿とはどうあるべきなのか」を住民と共に形作ったことに大きな特徴がある。(1)

基本計画段階において地元の意見を採り入れるべく、住民とのWSを週に1回の割合で計6回開催し、自由な意見交換の場を設けた。(2)

告別・炉前・取骨を1室にまとめた各々に入り口を持つ炉前・取骨ホールを2つ設けることによって、火葬本来の儀式性を持たせ、独立したホールの配置は、隣を意識・配慮せずに行うことが可能である。(3)

木造の炉前ホールは従来のものと違い、暖かく優しいイメージを与え、地域の人に馴染んだ火葬場の有り様を示している。(4,5)

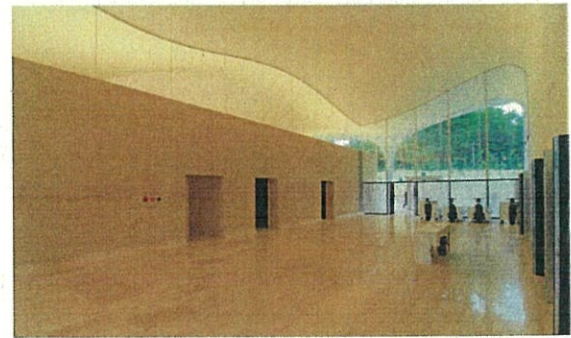
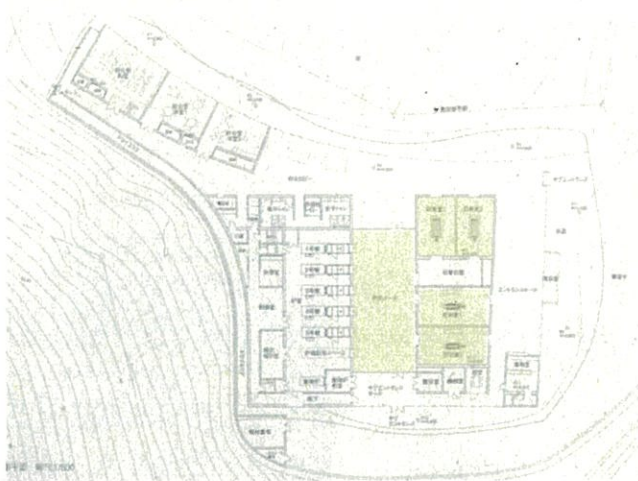
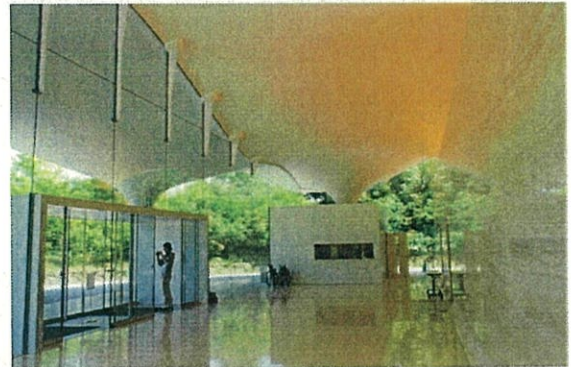
title | 瞑 想 の 森

profile | 岐阜県各務原市 設計=伊東豊雄 2006.7

concept | 「静けさと自然に帰る」

planning | (告別・拾骨分離型)

floor space | 2,264.57 m²



本火葬場は隣接する市営墓地と一体となる里山の豊かな環境を持つ公園墓地「瞑想の森」の中心施設となるものである。(1)

深い森への回帰をコンセプトに周辺地域まで含めた一体的なランドスケープ操作が計画されており、本来別々に扱われがちな墓地と火葬場、あるいは日常と非日常の空間の境界を曖昧にしている。(2)

平面はオーソドックスな火葬場であるが、ガラス面と高い天井高が特徴的であり、周囲の風景へと連続していくような空間の広がりを感じられ、非常に明るいイメージの火葬場である。(3)

エントランスや炉前ホールも従来の火葬場とは打って変わった開放的で明るい空間となっている。(4,5)

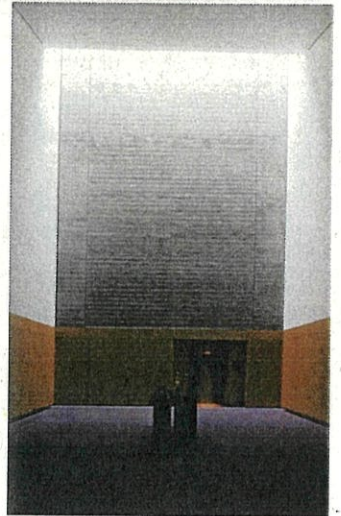
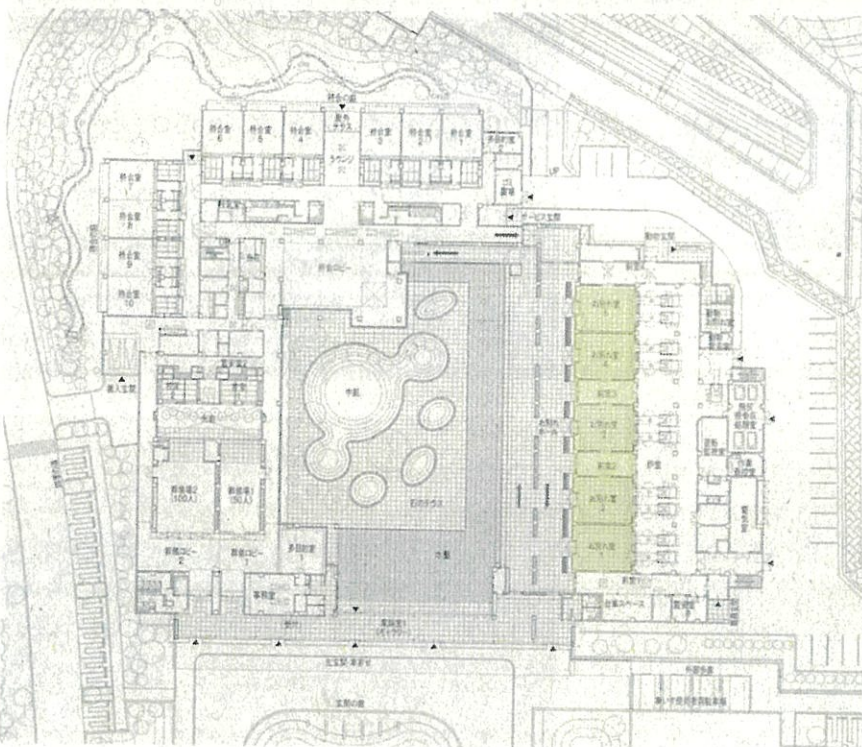
title | 広島市西風館

profile | 広島県広島市 設計=日総建・車田建築設計事務所 2012.4

concept | 「心の情景を創る」

planning | (非分離・一体型)

floor space | 7,297.08 m²



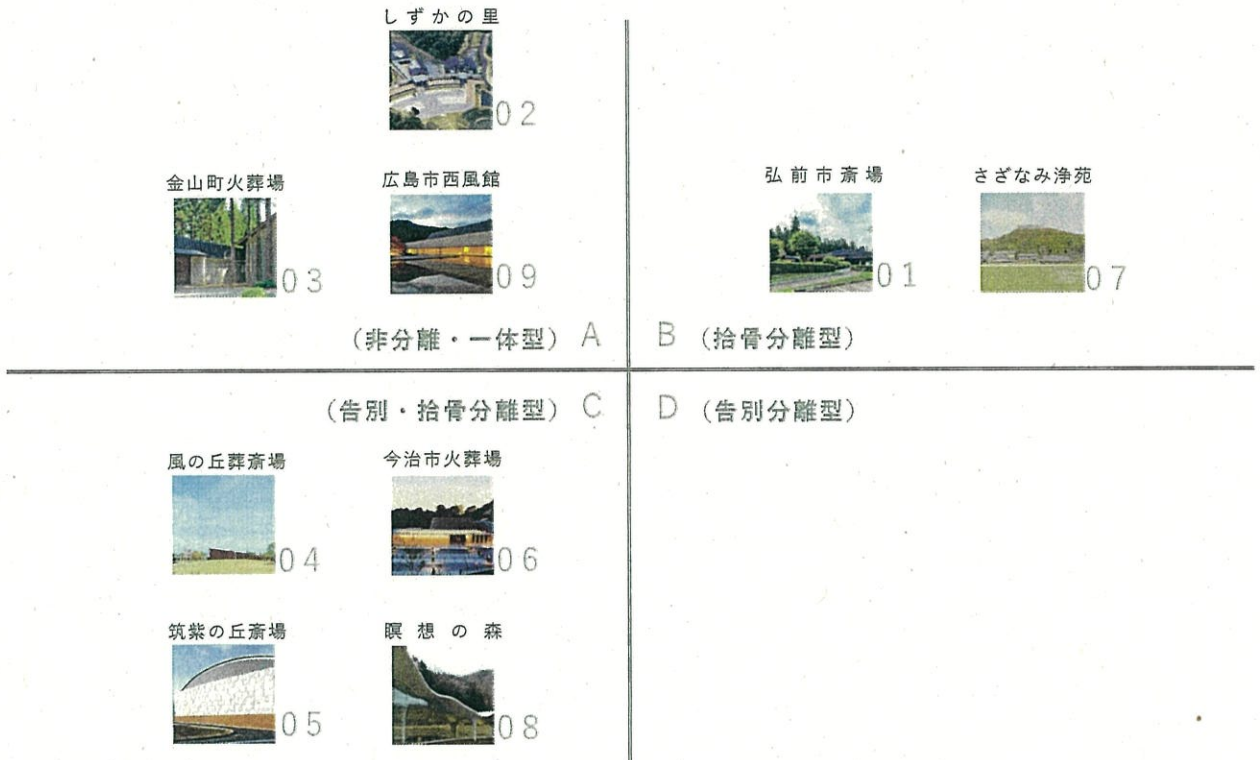
広島市西部に建設された火葬炉10基の比較的大規模な火葬場である。瀬戸内海や太田川を表す大きな水盤、そう上に浮かぶ鋭いエッジを持つ石のテラス、テラス上に展開する抽象化された瀬戸の島並みと山並みを表す中庭が建築の中心的空間となっている。自然が持つ季節や時間の変化を積極的に取り入れることで会葬者の心の情景としての記憶を刻む。(1)

効率優先された一列の火葬炉を並べるのではなく、「お別れ室」と呼ばれる個室空間的な炉前ホールを設けている。(2)

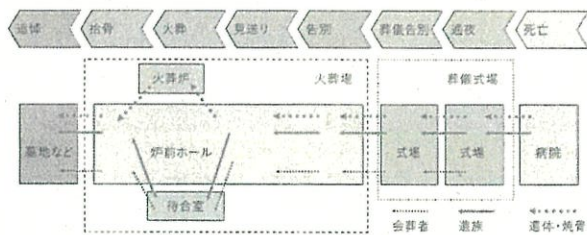
将来的な核家族や地域社会関係の変化への対応を想定し、「お別れ室」によって、告別、火葬、取骨が一体的にかつ独立に行える「葬送の個別化」を図った平面計画としている。(3)

火葬場分類図

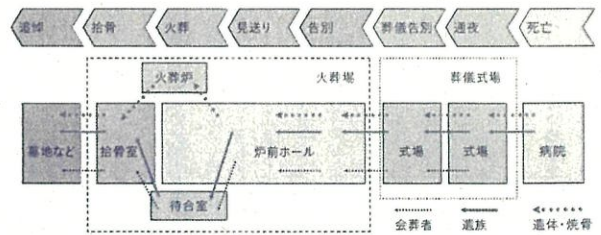
2016年8月22日
廣田 電介



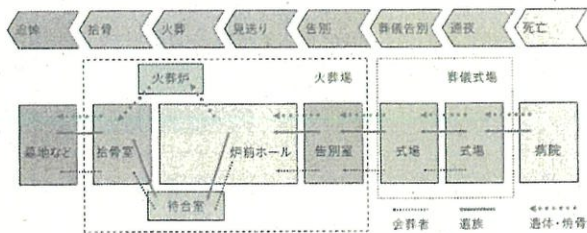
A (非分離・一体型)



B (拾骨分離型)



C (告別・拾骨分離型)



D (告別分離型)

